

WEEKLY SIGNAL

2020年1月10日(金) 1507号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想				
	1/13(月)	1/14(火)	1/15(水)	1/16(木)
無担保O/N			△ 0.087%	△ 0.001%
銀行券		+ 3,100	+ 2,000	+ 1,000
財政他		△ 400	△ 11,000	△ 18,000
資金需給		+ 2,700	△ 9,000	△ 17,000
主な要因			国債発行(個人向け) 国債償還(2年・個人向け) 源泉税揚げ	国債発行(5年)
オペ期日		共通担保(全) △ 6,000 CP買入 △ 400		
オペスタート	祝日(成人の日)	共通担保(全) + 5,900 国債買入 + 11,900		
(日本)		国際収支(経常収支)(11月) 景気ウォッチャー調査(12月)	マネーストック(12月)	機械受注(11月) 国内企業物価(12月)
(海外)	米 ヘンズ副大統領演説	米 NY連銀総裁 講演 米 カンザスシティ連銀総裁 講演 米 消費者物価(12月)	米 ページ・ブック 米 生産者物価(12月) 米 NY連銀製造業景気指数(1月) 欧 鉱工業生産(11月) 英 消費者物価(12月)	米 輸出入物価(12月) 米 小売売上高(12月) 米 フィラデルフィア連銀製造業景気指数 (1月) 米 鉱工業生産(12月) 米 シカゴ大学消費者信頼感指数 (1月、速報) 英 小売売上高(12月) 中 実質GDP(10-12月期) 中 鉱工業生産(12月) 中 小売売上高(12月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ～ 0.030
SPOT 2M	△0.010 ～ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ～ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ～ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初399兆1,700億円から始まった。今週は6日の国債発行、8日の税・保険揚げ、10日の国債・国庫短期証券発行と減少要因が多く、396兆5,700億円で越えた。
今週の無担保コールON物は、週初6日から8日まで前年末と同様の落ち着いた地合いが続いた。同加重平均金利は△0.064%～△0.061%で推移した。9日以降は日銀当座預金残高の調整を目的とした調達ニーズが強まった。同加重平均金利は9日に△0.052%、10日に△0.035%と大きく上昇した。
ターム物は1W物を中心に、主に△0.035%～△0.025%の水準で出合いが見られた。
米国防総相は3日、イラン革命防衛隊の司令官を殺害したと公表した。これを受け、新発10年国債の利回りは6日△0.045%程度まで低下し、為替市場でも円高が進んだ。その後8日に、イランがイラクにある米軍の駐留基地に攻撃を開始したとの報道がでると、為替市場では一時1ドル=107円76銭近辺と、2019年10月10日以来約3か月ぶりの円高・ドル安水準を付けた。
来週の主な予定は、国内では11月国際収支(経常収支)の公表(14日)や、12月マネーストック(M2)の公表(15日)などがあり、海外では米ページ・ブック(地区連銀経済報告)の公表(15日)や、米鉱工業生産の公表(17日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.003 ～ 0.000
TDB 3M	△0.150～ △0.100
現先(on/1w)	△0.050 ～ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆4,300億円で、週間償還額(約7,500億円)を大幅に上回り発行超となった。四半期末で、残高調整を行った事業法人の発行再開の動きが強かった。商社・鉄鋼・電気機器では、連日500億円以上の大型案件が散見された。発行残高は、12月末の20兆4,735億円から9日時点では約21兆3,600億円強となった模様。発行レートは、浅いマイナス～0%近辺の出合いが中心であったが、発行量の多い銘柄についてはプラスレートでの出合いも散見された。
来週の発行市場は、週間償還額(約6,400億円)に対し、事業法人の発行再開や期日継続が予定されるため、発行超となるだろう。15日に、CP等買い入れオペが2,500億円程度オフアーされる予定である。発行レートは、引き続き浅いマイナスから0%近辺のレンジと思われるが、発行頻度の高い銘柄ではプラスレートの出合いが多くなることを予想する。

<TDB>

7日のTDB3M物879回債(4月6日償還)入札結果は、最高落札利回り△0.0984%(前回債△0.0893%)、平均落札利回り△0.1086%(同△0.1061%)となり、10日の同881回債は最高落札利回り△0.1074%、平均落札利回り△0.1175%であった。また9日の6M880回債(7月10日償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1162%(前回債△0.0996%)、平均落札利回り△0.1182%(同△0.1036%)となった。そのほかセカンダリーでは3M879回債が△0.130%～△0.105%、881回債が△0.12%、1Y物877回債(12/21償還)が△0.140%～△0.125%のレンジで取引された。
来週は16日に1Y、17日に3Mの発行が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は、年初△0.10%前後での出合いからスタート。その後、短所3Mの発行があった8日受渡しの取引は後場に△0.06%近辺まで上昇したものの、積み最終日前の4日積みとなる10日受渡しでは、△0.11%～△0.10%程度まで再び低下した。SC取引は20年169回債が△0.1%台後半で取引された。その他2年402～407回債、5年138～141回債、10年339～357回債、30年59～63回債、40年12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。